

パネルディスカッション話題提供

国土交通省都市局都市計画課

都市計画調査室長

越智 健吾

政策評価の取り組み

【目的】

効果的・効率的な行政、国民への説明責任、経済再生・財政健全化

【取り組みの手法、キーワード】

○PDCA

○見える化、KPI(Key Performance Indicator)

○EBPM(Evidence-Based Policy Making)

...

都市計画行政

○コンパクト・プラス・ネットワーク

都市計画情報の
集積・標準化等

都市計画データを総合的に
利用できる環境を整備

都市の状況を横一列で比較可能に

評価指標の開発・提供

コンパクトシティによる
多様な効果が見える化

経年比較を通じて実効的な
PDCAサイクルを構築

ビッグデータを活用した
新たな調査手法の開発

経験による施設立地から
データ分析に基づく施設立地へ

計画手法の高度化

具体的な取組内容

28年度中

○都市計画情報の集約

- ・各自治体の公開情報の集約
(G空間情報センターの活用)

○歩行量に関するガイドラインの
作成

- ・歩行量に関する指標、調査手法を
整理

○人の行動データの把握に関する
手引きの作成

- ・人の行動データを把握するための
調査・分析手法、分析事例を記載
した手引きを作成

29年度以降

○都市計画情報のデータ項目の
標準化

- ・都市計画基礎調査の共通フォーマットを作成し、自治体の調査(概ね5年)合わせてデータを更新

○「都市構造カルテ」の作成

- ・都市構造に関する情報をまとめたカルテを自治体ごとに作成

○「まちの活性化」を測る指標
の開発

- ・経済効果や財政効果を表す指標から整理し、「まちの活性化」を測る指標を開発
- ・各都市において指標の動向をレビューし、取組の成果を検証

○人の行動データを把握するシステム
の構築

- ・手引きで示した分析手法をプログラム化したシステムを開発
- ・オープンなシステムとして運用し、普及を図る

スマート・プランニング

福祉施設の立地を誘導する場合・・・

従来の計画手法

地図を用いて一定の範囲で地区を切り取り、
その中の住民数や密度を見て、これまでの
経験などを基に立地場所を決定



地区にある市町村が所有している土地や
空き地に誘導

- ⇒ 地区内のどこに立地させるべきかは特定できない
- ⇒ 本当に立地場所が最適な場所であったかを評価できない

スマートプランニングの計画手法

ビックデータを活用して、個人の移動特性を把握し、施設配置や道路空間の配分を変えた時の「歩行距離」や「立ち寄り箇所数」、「滞在時間」の変化を見て、最適な施設の立地を検討

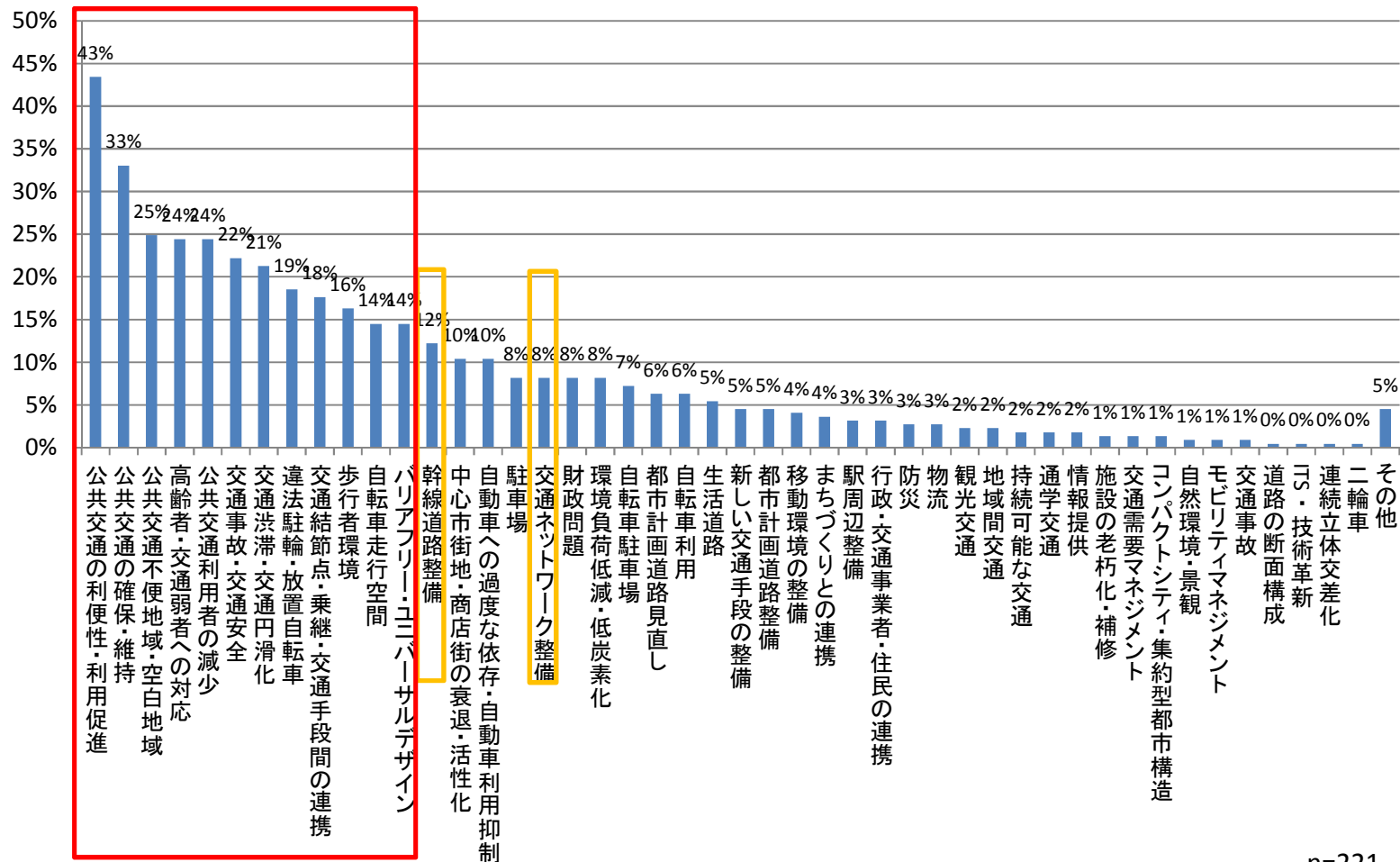
まちづくり行政の現場より～(例)福井駅周辺整備

福井駅周辺 整備イメージ図



幹線的な交通ネットワークの構築に加えて、公共交通の利用促進や不便地域の解消、交通安全対策、結節点整備、歩行者・自転車環境の充実など

「短中期的・ミクロな交通施策」にまでニーズが拡大



n=221

出典：今後の望ましい都市交通調査手法に関する検討調査報告書(H26)、国土交通省都市局都市計画調査室
 ※全国の都道府県及び10万人市区町村の都市が対象。回答率75.3%。